

オンライン会議の 費用は？

慣れないうちは取引があったとき、どんな勘定科目で処理すればよいのか、悩むケースもあるでしょう。そうした勘定科目の取扱いについて、新人さんと一緒に、事例をもとに学んでいきましょう。



新人さん：オンライン会議が多くなってきましたね。

先輩：どこにいても会議に出席できるし、会議時間も短くなっているみたいだし、結果的に会議の生産性が上がったかもな。

新人さん：会議のニューノーマル（新常态）ですね。

先輩：オンライン会議ツールもどんどん便利になっているし、この流れは変わらないだろうな。

新人さん：はい。ところで、オンライン会議システムの使用料は「通信費」でいいですか？

先輩：「通信費」でも構わないが、もっぱら会議のために使っているから、うちの会社では「会議費」で処理しているよ。

●解説

「会議費」とは、仕事を進めるために必要な会議に関

連した支出を処理する勘定科目です。具体的には、部屋代、資料代、茶菓子代などです。また、遠隔地で会議を開催した場合には、旅費や宿泊費を「会議費」に含めることもあります。

「会議費」は、実務上、交際費課税の関係から「交際費」との区分が重要となります。「会議費」として処理するには、参加者は社内外の人を問いませんが、その内容が会議としての実体を有していることや、その支出が常識程度のものであることが必要です。そうでない場合は、「交際費」等として処理します。

また、税務上、1人5,000円以下の飲食代は「交際費」でなく「会議費」として処理できます。その場合は、飲食等のあった年月日、参加者の氏名、人数、金額、飲食店の名称と所在地等を記載した書類を保管しておく必要があります。

ケース1 オンライン会議のシステム使用料を支払った場合の処理

オンライン会議を実施するにあたり、システムの使用代5,400円（税別）をクレジットカードで決済した。

【借方】	会議費	5,400	／	【貸方】	未払金	5,940
	仮払消費税等	540				

ケース2 会議と併せて懇親会を開催した場合の処理

販売戦略会議を開催し、その後、レストランで懇親会を開いた。会議室の使用料50,000円（税別）と懇親会費100,000円（税別）を現金で支払った。

【借方】	会議費	50,000	／	【貸方】	現金	165,000
	交際費	100,000				
	仮払消費税等	15,000				